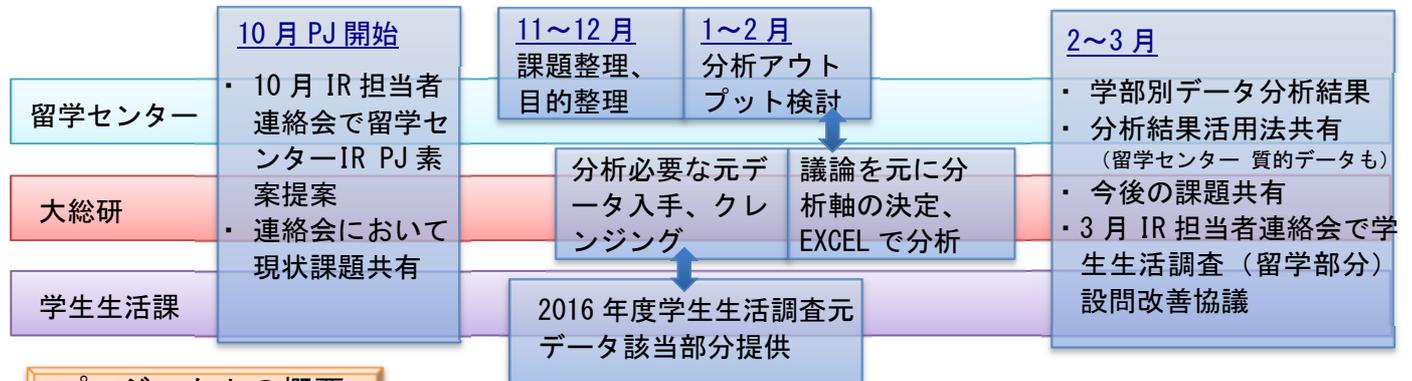


留学センター×大学総合研究センター 箇所 IR プロジェクト実施報告

-2016 年度学生生活調査回答から見た学部別留学意識-

2017/04 報告者 助教 山岸 直司
職員 中山 勝博

留学センター×大総研 箇所 IR プロジェクトの流れ



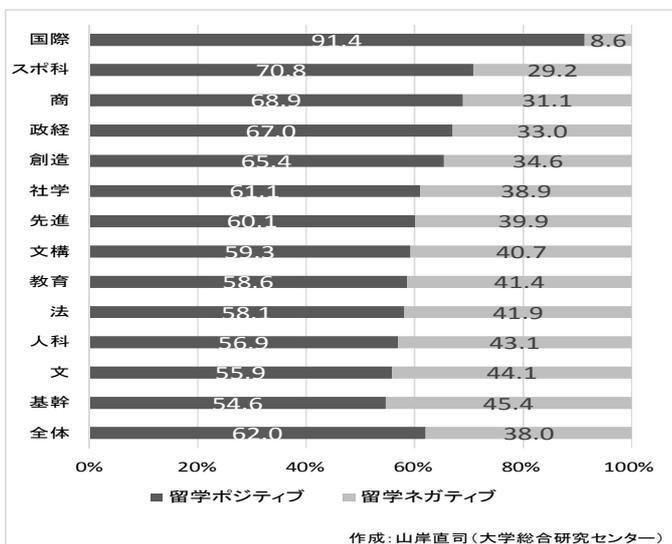
プロジェクトの概要

当プロジェクトは、大学総合研究センターが箇所分散型 IR として留学センターと協働し、2016 年度後期に、「海外留学促進に活かす学部別留学意識の検証」を行いました。留学センターでは、Vision150 の「2023 年全員留学」実現に向けた海外留学促進プロジェクトの中で、これまでも派遣実績の経験則により、国際教育プログラムの開発に取り組んできました。しかし、学生の留学意識調査の必要性は感じながらも、データに基づいた知見の構築までは踏み込んでいませんでした。

最初に、留学意識分析構築の達成目的を整理する所からスタートし、1. 学部連携した国際教育プログラム企画・開発を進める参考資料としての学部別の派遣留学意識データ把握、2. 学内既存アンケートデータの有効活用と課題発見、の 2 点を明確にしました。その上で、入手可能な使用データとして、2016 年度第 35 回学生生活調査 4 章「留学・異文化交流」を特定し、留学していない学生の学部別差異に着目しました。

留学センターでは、各学部別分析結果 (サンプル例: 図表参照) を今後も、既存プログラムの質的側面と併せた視点から新規国際教育プログラムの企画・開発につなげたり、学部別留学実態ヒアリングや事業報告書に活用したりする予定です。また、IR 担当者連絡会では、今回の事例を基に、他箇所主管アンケートデータの所在明確化と活用方法など、本学分散型 IR の諸課題について検討を行いました。

今回の IR プロジェクトでは、利活用目的に沿った適切な問い (何をデータで明らかにするのか) の設定や、分析ニーズに添った分析手法マッチング、そして限られた時間内に協働していかに効果的に進められるのか等、マネジメントの重要性に改めて気づかされました。今後の箇所分散型 IR 推進に向けて、引き続き IR プロジェクトマネジメントの在り方も、実践の中でより良い形を求めて参りたいと思います。



図表: 学部別にみた留学ポジティブとネガティブの内訳 (%)



留学センターとの検討打合せ状況の一コマ